

福祉の未来を拓く

社大福祉フォーラム 2023

(第61回日本社会事業大学社会福祉研究大会)

《大会テーマ》

『生』に寄り添う社会福祉 ～誰一人取り残さないソーシャルワーク～

《 日 程 》

2023年6月24日(土)・25日(日)

【1日目】6月24日(土)

開催場所…午前：講堂(対面・オンライン)、午後：各教室(対面) ※一部オンライン併用企画あり

9:30	●受付 午前(講堂) 9:30～11:30 午後(A棟) 13:00～15:00	9:30
10:00	●開会式 ●プログラム説明	10:00
10:10	●本部企画 【基調講演】「気候変動・災害と福祉」 講演者 炭谷 茂 氏(社会福祉法人恩賜財団済生会理事長)	10:10
11:30	●叙勲受章者 スピーチ	11:30
11:50	●木田賞贈呈式 ●受賞者スピーチ	11:50
12:20	●学生研究奨励賞贈呈式	12:20
12:40	●学内学会総会	12:40
12:50	休憩	12:50
13:30	●サークル発表	13:30
13:30	●自主企画 13:30～15:30 ・Human Well-Beingの実現に向けて <A201> —介護福祉実践のさらなる展開として介護ロボットは有効か— 13:30～15:30 ・社会福祉実践～過去・現在・未来～ <A301> 13:30～15:30 ・多様性に基づく福祉実践の国際比較(スタディツアー報告) <A302> 13:30～15:30 ・災害と福祉の支援と受援 <A401・オンライン> 13:30～16:00 ・対面交流企画「みんなあつまろー」 <研202>	13:30
	●分科会(A202) 13:30～14:30 ・障害児支援の検討会にみる理念の変遷について ・地域における包括的な支援に向けた協働体制の構築と活用 ～実践学習機会としてのグループスーパービジョンを振り返って～ 14:40～15:40 ・いじめの早期発見・早期対応に資するいじめ防止プログラムに関する研究 ・児童養護施設における歴史と変遷—小規模化に焦点を当てて—	14:40
16:00		15:40

復興カフェ(午前：講堂)

午後：A棟ロビー

【2日目】6月25日(日)

開催場所…講堂(対面・オンライン)

9:30	●受付 (講堂)	9:30
10:00	●本部企画【シンポジウム】 『生』に寄り添う社会福祉 ～誰一人取り残さないソーシャルワーク～ シンポジスト：染倉 有希氏 (つくば福祉部社会福祉課/社会福祉学部 57期 2017年卒業) 天宮 陽子氏 (東日本少年矯正医療・教育センター/専門職大学院17期2022年修了) 杉山 聖子氏 (入管収容問題を考えるソーシャルワーカーネットワーク/ 通信教育科精神保健福祉士短期養成課程18期2018年度修了) コーディネーター：新藤 健太 (社会福祉学部・講師)	10:00
12:00		12:00

復興カフェ(講堂)

開会式

10:00～10:10〔講堂/オンライン〕

(手話通訳・パソコン通訳あり)

司会：菱沼 幹男 (社会福祉学部教授)

- ・開会のあいさつ 日本社会事業大学社会福祉学会 会長 横山 彰
- ・プログラム説明

基調講演

10:10～11:30〔講堂/オンライン〕

(手話通訳・パソコン通訳あり)



「気候変動・災害と福祉」

講演者 ^{すみたに}炭谷 ^{しげる}茂 氏

社会福祉法人 恩賜財団済生会 理事長



社会福祉法人
恩賜財団済生会 理事長
炭谷 茂 氏

<プロフィール>

東京大学法学部卒。厚生省に入省。自治省、総務庁、在英日本大使館、厚生省社会・援護局長などを経て2003年環境事務次官に就任。2008年5月から社会福祉法人恩賜財団済生会理事長。日本障害者リハビリテーション協会会長、富山国際大学客員教授なども務める。著書に「環境福祉学の理論と実践」(編著)、「社会福祉の原理と課題」など多数。



叙勲受章者スピーチ

11:30～11:50〔講堂 / オンライン〕



叙勲受章者紹介

(手話通訳・パソコン通訳あり)

潮谷 義子 氏 (日本社会事業大学社会福祉学会会員 / 前本学理事長・本学顧問)

2022年11月3日の秋の叙勲において、旭日重光章を受章されました。
ご受章、誠にありがとうございます。栄誉を心よりお祝い申し上げます。
今後ともご健康で、なお一層のご活躍をお祈り申し上げます。

木田賞・学生研究奨励賞 贈呈式

11:50～12:20〔講堂 / オンライン〕

司会：菱沼 幹男 (社会福祉学部教授)

(手話通訳・パソコン通訳あり)



【木田賞】

(実践奨励賞)

- ・酒寄 学 氏 (社会福祉法人芳香会茨城県地域生活定着支援センター センター長 / 社会福祉学部 36期 1996年3月卒業 / 博士前期課程 14期 2004年3月修了)



【学生研究奨励賞】

- ・内野 和美 さん (2023年3月 社会福祉学部 福祉援助学科 卒業)
- ・川尻 ちひろ さん (2023年3月 社会福祉学部 福祉援助学科 卒業)
- ・木嶋 優子 さん (2023年3月 大学院 福祉マネジメント研究科 (専門職大学院) 修了)

学内学会総会

12:20～12:40〔講堂 / オンライン〕

司会：菱沼 幹男 (社会福祉学部教授)

(手話通訳・パソコン通訳あり)

サークル発表

12:50～13:30〔講堂〕

- ✿手話サークルいちご
- ✿マンドリンアンサンブル
- ✿混声合唱団菩提樹



<分科会1>

13:30 ~ 14:30 [A 202]

コーディネーター：田村 真広（社会福祉学部教授）



- ・障害児支援の検討会にみる理念の変遷について
吉田 真依子（大学院博士前期課程2年）

2008（平成20）年の「障害児支援の見直しに関する検討会」から2023（令和5）年の「障害児通所支援に関する検討会」まで、障害児支援についていくつかの検討会が重ねられてきた。その中では、その考えの基盤となる、子どもや子育てへの支援やインクルージョン等の理念について記述されており、報告書の各種の細かい記述に対しての、考え方の基盤の役割を果たしている。本発表では、2008（平成20）年の検討会から2023（令和5）年の最新の検討会までを取り扱い、障害児支援の在り方に関する目的と理念の変遷について検討する。



- ・地域における包括的な支援に向けた協働体制の構築と活用
～実践学習機会としてのグループスーパービジョンを振り返って～
木戸 宜子（専門職大学院教授）

地域共生社会の実現に向けて、複雑化した生活課題、潜在的な福祉ニーズに対応するために、専門職や福祉組織、住民を含めた関係者らによる包括的な支援が求められている。その中で、福祉専門職がその実践力を十分に発揮できるよう、ソーシャルワークの専門性を高め、立場性や力動を踏まえた実践行動を実現するソーシャルワークスーパービジョンが必要である。スーパーバイザー・スーパーバイジー関係における実践の気づきや学びだけではなく、福祉組織や地域における協働体制を指向するスーパービジョンに注目する。

<分科会2>

14:40 ~ 15:40 [A 202]

コーディネーター：木戸 宜子（専門職大学院教授）



- ・いじめの早期発見・早期対応に資するいじめ防止プログラムに関する研究
田村 真広（社会福祉学部教授）

本報告は2022年度サバティカルにおける研究成果の一部である。2013年の「いじめ防止対策推進法」公布以降、いじめ問題への対応策は急展開を遂げた。その特徴は基礎的・予防的な対応の周知徹底と言ってよい。2022年12月には文科省の『生徒指導提要』が改訂され、いじめの未然防止、早期発見・早期対応への包括的な指導方針が打ち出された。しかしながら、学校における環境調整やカリキュラム・マネジメント等、研究すべき課題は山積している。本報告では、いじめ防止プログラムの策定に資する基本的視座について提言する。



- ・児童養護施設における歴史と変遷 一 小規模化に焦点を当てて一
大岡 崇（大学院博士前期課程2年 / 社会福祉学部51期2010年卒業 / (福)共生会 希望の家 児童指導員）

社会的養育分野の政策に目を向けると、2017年に発表された「新しい社会的養育ビジョン」を転換点として、「家庭的養護」・「小規模化」に向けて児童養護施設は職員の人員配置増員や養育環境をどのように捉えるか変化していく見通しである。児童養護施設の事業計画においても中長期的視点において、「新しい養育ビジョン」を今後どのように見据えていくか今検討されている。本発表では、児童養護施設に関連する検討会、児童養護施設の原理（ハンドブック等）、制度政策、ビジョンを通じて歴史と変遷を概観し検討する。

<自主企画分科会>

13:30 ~ 15:30

Human Well-Beingの実現に向けて一介護福祉実践のさらなる展開として介護ロボットは有効か—13:30~15:30 [A201]



壬生 尚美 (本学社会福祉学部福祉援助学科 介護福祉コース)
 森 千佐子¹・永嶋 昌樹¹ (¹本学社会福祉学部福祉援助学科 介護福祉コース)
 長谷部 裕美 (ビーサイドユ一株式会社 / 社会福祉学部 58期 2018年卒業)・
 鈴木 健太 (社会福祉法人 友愛十字会 法人本部事務局企画部 介護生産性向上推進室 室長
 特別養護老人ホーム 友愛荘 施設長)

2025年以降の超高齢社会を前に、介護を担う職員の人材不足が深刻化しています。そのため、Human Well-Beingの実現に向けて、AIや情報処理技術を効率よく活用し、介護を補完する介護ロボットの利用が喫緊の課題となっています。そこで、介護度が重度化する介護老人福祉施設において、介護ロボットの介護サービスへの適用にあたり、どのような介護ロボットが利用されているのか、全国調査の結果(第65回老年社会科学大会発表一部)や、実際に介護ロボットを積極的に取り入れている介護老人福祉施設の施設長をお招きして、介護ロボットの効果と課題等を報告していただき、これからの介護福祉実践に向けて参加者の皆さんと意見交換できればと考えています。

社会福祉実践～過去・現在・未来～

13:30 ~ 15:30 [A301]



日下 公佑 (社会福祉学部 57期 2017年卒業 / 本学社会福祉学会評議員)
 青木 尚人 (立教大学社会福祉研究所研究員 / 社会福祉学部 52期 2012年卒業)
 本田 優斗 (NPO法人 ほっとポット理事 / 社会福祉学部 60期 2021年卒業)

助言: 黒川 京子 (社会福祉学部准教授)

大会のテーマである「生」に寄り添う社会福祉～誰一人取り残さないソーシャルワークとは何かを考えた。「生の支援」を「生きる」ために支援が必要な方に対するの支援の方法と定義づけ、それをテーマに日本社会事業大学卒業生の3人が過去・現在・未来についてパートを分けて発表をする。

- | | |
|--------------------------------------|-------|
| ① 戦前の方面委員と社会事業主事・社会事業主事補が織りなす『生の支援』 | 青木 尚人 |
| ② 社会福祉士による住まいを失った方に対する『生の支援』 | 本田 優斗 |
| ③ 地域共生社会政策における『生の支援』現場の社会福祉士からの検討の考察 | 日下 公佑 |

多様性に基づく福祉実践の国際比較 (スタディーツアー報告) 13:30 ~ 15:30 [A302]



五明 響 (学部4年)・辻垣 奈鶴 (学部4年)・高野 莉瑚 (学部4年)・横田 花音 (学部4年)
 宮東 英維 (学部4年)・久高 麻那子 (学部4年)・吉田 弥由 (学部3年)・小林 佐緒 (学部3年)
 金城 美佑 (学部3年)・馬場 美桜 (学部3年)・井上 夏美 (学部3年)・神谷 更沙 (学部2年)
 安楽 美春 (学部2年)・小島 祥子 (社会福祉学部 2023年卒)

小原 眞知子 (社会福祉学部教授)

ヴィラーグ ヴィクトル (社会福祉学部准教授)

2023年3月末に実施したスタディーツアー(シドニー)での学び、気づき、考察を発表する。
 具体的には、オーストラリアに住む人々の文化・歴史的背景を踏まえ、多様性について、子ども家庭福祉・障害者福祉等の視点から日本との違いを考察する。

災害と福祉の支援と受援

13:30～15:30 [A401・オンライン]



進行：高橋 幸生（社会福祉学部教授 / 学長室 多心型福祉連携センター センター長）

<シンポジスト>

原田 奈津子 氏（社会福祉法人恩賜財団済生会 保健・医療・福祉総合研究所 上席研究員）

有坂 幹朗 氏（社会福祉法人浴風会 地域サービス部長）

今井 遊子 氏（社会福祉法人全国社会福祉協議会 政策企画部副部長）

<コメンテーター>

潮谷 有二 氏（社会福祉法人慈愛園 慈愛老人ホーム・ケアハウス施設長）

藤野 将睦 氏（株式会社ビーサイドユー 取締役社長）

地震・風水害などの自然災害が頻発する中、福祉における災害対応の重要性が増しています。本学とご縁の深い3団体（社会福祉法人恩賜財団済生会、社会福祉法人浴風会、社会福祉法人全国社会福祉協議会）よりシンポジストをお招きして、災害福祉支援に関する活動についてご紹介いただきます。特に、済生会様からは原田上席研究員（済生会保健・医療・福祉総合研究所 研究部門）より、「災害と福祉の支援と受援」に関する調査・研究をご報告いただきます。さらに、シンポジスト及び参加者の皆様と、今後につながる議論を深める機会になればと考えています。

対面交流企画「みんなあつまろー」

13:30～16:00 [研202]



高橋 幸生（社会福祉学部教授 / 学長室 社会福祉研修センター センター長）

島津屋 賢子（本学学長室 社会福祉研修センター 研究員 / 専門職大学院 14 期修了）

学長室社会福祉研修センターは、2020年度より厚生労働省委託オンライン総合研修を行っています。この3か年で、全国よりのべ800名を超える受講生の皆様とオンラインでつながり、「できれば対面で会ってみたい」「日本社会事業大学に関心がある」というお声をいただきました。こうしたご要望にお応えして、対面交流企画「みんなあつまろー」を開催いたします。当センターの隣室（研202教室）にブースを設けて、展示、ポスター発表、来場者への説明等の場を提供します。また、本学在校生および卒業生の参加も広く歓迎します。お気軽にご来室ください。

学生有志団体 Cocoa「復興カフェ」

[午前：講堂・午後：A棟ロビー]



プログラム説明

10:00～10:10〔講堂 / オンライン〕

司会：菱沼 幹男（社会福祉学部教授）
・プログラム説明

〔手話通訳・パソコン通訳あり〕

シンポジウム

10:10～12:00〔講堂 / オンライン〕

〔手話通訳・パソコン通訳あり〕

『生』に寄り添う社会福祉

～誰一人取り残さないソーシャルワーク～



コーディネーター：新藤 健太（社会福祉学部講師）

シンポジスト：

染倉 有希 氏（つくば市福祉部社会福祉課 / 社会福祉学部 57 期 2017 年卒業 /
本学社会福祉学会評議員）

天宮 陽子 氏（東日本少年矯正医療・教育センター / 専門職大学院 17 期 2022 年修了）

杉山 聖子 氏（入管収容問題を考えるソーシャルワーカーネットワーク /
通信教育科精神保健福祉士短期養成課程 18 期 2018 年度修了）

学生有志団体 Cocoa 「復興カフェ」

〔午前：講堂〕



ご案内

- ① 参加資格：どなたでも参加できます。対面での参加者は、必ず会場で受付をしてください。
オンライン併用企画にオンラインで参加する場合は、下記の参加申込フォームより登録下さい。
*オンライン参加は、インターネット接続が必要です。
- ② 参加費等：無 料
- ③ 手話通訳：第1日目の開会式、基調講演、第2日目のシンポジウムには手話通訳が付きます。
- ④ 昼食等：6月24日 12:00～13:30は、食堂が利用できます。
- ⑤ 駐車スペースがありませんので、ご来場には公共交通機関をご利用ください。
- ⑥ 障がい等のため、特別な配慮が必要な方は、5月31日までに予めお申し出ください。
※内容・スケジュールは変更になる場合がございます。ご了承下さい。

【オンライン参加】

オンラインでの参加は、6月24日・25日の本部企画及び一部の自主企画が対象となります。
オンライン併用企画にオンラインで参加される場合は、事前に下記より申しいただき、Zoom情報や資料を取得ください。

◆参加申込フォーム

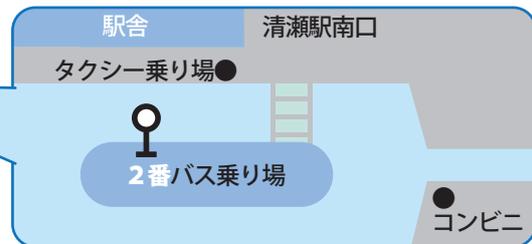
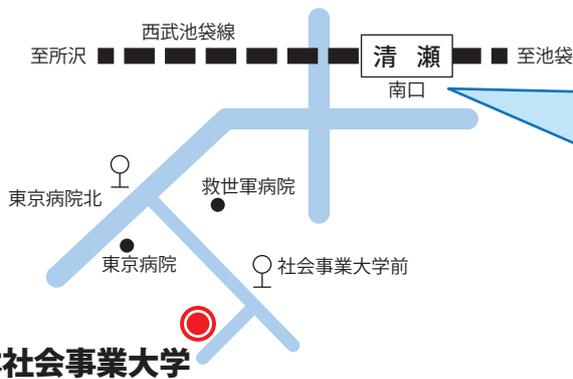
<https://fs220.xbit.jp/b646/form7/>



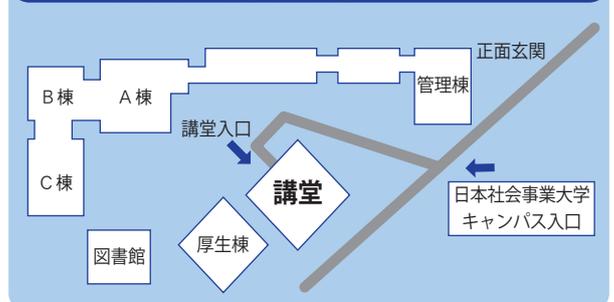
【対面参加】

会 場：本学清瀬キャンパス 〒204-8555 東京都清瀬市竹丘3-1-30

交通機関のご案内



日本社会事業大学キャンパス



交通機関

西武池袋線「清瀬駅」下車（池袋より準急で21分）
南口ターミナル2番より西武バス8分

- 「下里団地」行き又は「花小金井」行き「社会事業大学前」下車、徒歩1分
- 「久米川」行き「東京病院北」下車、徒歩5分



■主 催 学校法人日本社会事業大学 / 日本社会事業大学社会福祉学会
■お問い合わせ 〒204-8555 東京都清瀬市竹丘3-1-30
学校法人日本社会事業大学 社会事業研究所（社会福祉学会事務局）
Tel 042-496-3050 Email swri@jcs.ac.jp